

「四季・植物」 33 土筆

学名 *Equisetum arvense* L.

トクサ科の多年草

名前の由来については様々な説があり、はっきりしない。

郷土資料から見た「^{つくし}土筆」のあれこれ

土筆は「ツクシ誰の子スギナの子」とわらべ歌に歌われるように、スギナの胞子茎で「つくしんぼ」の名でも親しまれている。早春に日当たりのよい草地で、文字どおり筆のような姿を見て春の訪れを実感する人は多く、「土筆摘む」は春の季語となっている。

食用となるのは有名で「素朴な味がする」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）とあるが、実際に柏崎で春の味覚として楽しんでいる人は以外に少ない。これには「本県では、ツクシが顔を出す頃は、ほかの山菜の出盛りに当たり、ほとんど食べない」（「新潟の山菜料理」）という説がある。

未熟な頭部と茎を食用にするが、穂がかたく茎が太く短いものがよく、はかまを取って軽くゆで、しばらく水にさらしアクを抜いてから調理する。卵とじや煮物、和え物などにするが、ほろ苦さを生かすため、ゆですぎに注意し薄味にするとよいとされる。

参考資料

「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「新潟の山菜料理」	桜井薫著	1989	「料理食材大辞典」	主婦の友社篇	1996
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「草木花歳時記 春」	角川書店発行	1990
「西山町の自然」	西山町発行	2002			